

日本子ども社会学会 第26回大会

公開シンポジウム

「子ども」ではなく 「子どもたち」を問う

— 学校・きょうだい・悪態 —

子どもが集団で遊んでいると、一人の時には見られない子どもの一面が見られることがある。個人を形成する原風景は個人の体験でありながらも、誰かと共有した体験が原風景へと昇華している場合が多い。

文化体験を通して子どもが育つ際、他者との関係はどのような意味をもっているのだろうか。あるいは文化を身体化した存在としての子どもは、「子どもたち」になった時にどのような育ち合いをするのだろうか。

そこで本シンポジウムでは、子ども集団にみる子どもたち、対話的で深い学びを視野に入れた子どもたち、きょうだい関係の中での子どもたち、そして新学習指導要領で重視されている主体的で子ども文化生成と伝承を担う子どもたちについて、それぞれの登壇者から報告していただき「子どもたち」について議論を深めたい。「子ども」または「子どもたち」に関心のあるすべての方の参加を歓迎する。

コーディネーター・司会

加藤 理(文教大学)

登壇者

田中 理絵(山口大学)

元主 浩一(福岡市教育センター)

磯崎 三喜年(国際基督教大学)

鵜野 祐介(立命館大学)

指定討論者

石黒 万里子(東京成徳大学)

麻生 武(奈良女子大学)

2019年6月30日(日) 15時40分~17時40分
3号館階の木ホール

東京成徳大学